

Title	ラインが自主的に改善を進めるための階層別実施内容チェックリストの作成
Sub Title	
Author	武藤渉(Mutou, Wataru) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1552号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1552

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	河野 研究会	学籍番号	89828893	氏名	武 藤 渉
(論文題名)					
ラインが自主的に改善を進めるための 階層別実施内容チェックリストの作成					
(内容の要旨)					
<p>近年、従業員の自主性を期待して行われるQCサークル活動は活性化されておらず、マンネリ化しているという声が多く聞かれる。企業は改善活動を活性化させようと様々な施策を打っているが、経営環境が厳しさを増す中で、自主的な改善はなかなか進まなくなってきた。自分の所属するE社O工場の改善についても、大半の改善活動で同様のことが言える。1990年から「ライン中心型」の考えを前提に置いた自主的な改善活動が進められるようになったが、この活動は一部の事務処理に関する改善であり、直接部門の現場では、自主的な改善活動が行われていない。</p> <p>本研究の目的は、自主的な改善を進めるために重要な要因を明らかにし、自主的な改善を進めていくために組織の各階層が取るべき行動や考え方を、自主的改善に関するチェックリストとして提示することである。</p> <p>そのために本研究では、2つの工場において、自主的な改善に関わってきた人々を対象としたインタビューおよび文献調査を行い、自主的な改善に係わる内容の抽出を行った。その調査結果を基に、改善に関わる組織内階層の分類、活動内容の実施可能性の分析、自主的な改善の内容に関する考察を行い、それらの考察結果に基づいて、ある工場が自主的な改善を進めていくことが可能か否か、どんな点が不足しているかを明らかにするためのチェックリストを作成した。</p> <p>このチェックリストを自分が所属するE社O工場で運用して評価した結果、ラインに対して改善をする喜びを与えるという内容に関してE社は問題があるという結果が得られた。また、各階層に付いてもチェックリストへの回答結果を分析し、その結果から、例えばトップ・マネージャーに対しては「ラインの生み出した時間と効果をラインの人たちが自由に使えるようにすること」「改善のお金を確保すること」、ミドル・マネージャーに対しては「改善の進め方・方法等は部下に任せること」、ライン・リーダーに対しては「上司であるミドル・マネージャーからラインの人にわかりやすい教材の作り方を教わること」といった具体的な提案を行っている。</p> <p>本研究で提示しているチェックリストは、調査対象工場が2つであるという研究作業の制約を受けてはいるが、自主的な改善に関わる内容を広い範囲で網羅しており、各社での改善活動を方向づけたり進めていく際に有効に活用できるものであると言える。</p>					